

経営比較分析表

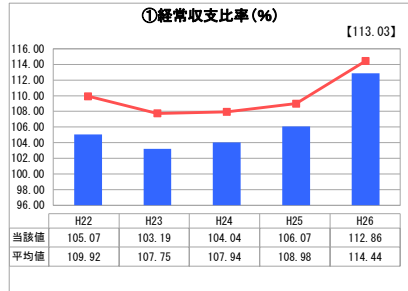
神奈川県 横須賀市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A1
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	76.40	100.00	2,581

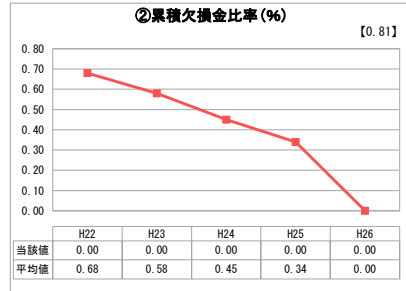
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
418,277	100.83	4,148.34
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
404,410	101.06	4,001.68

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成26年度全国平均

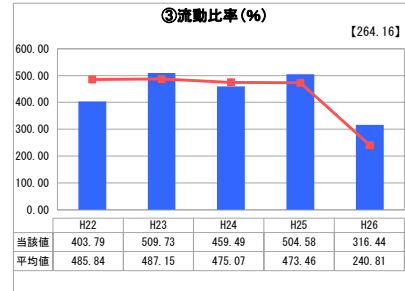
1. 経営の健全性・効率性



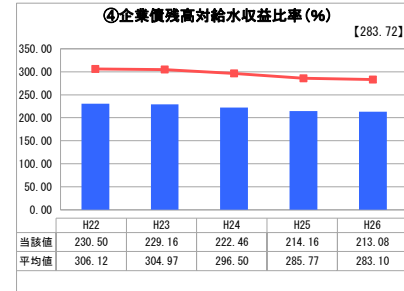
「経常損益」



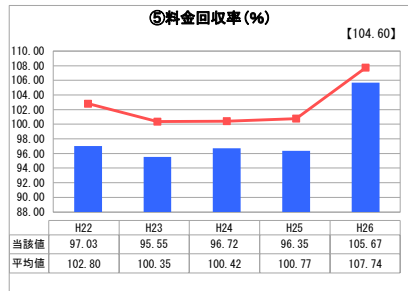
「累積欠損」



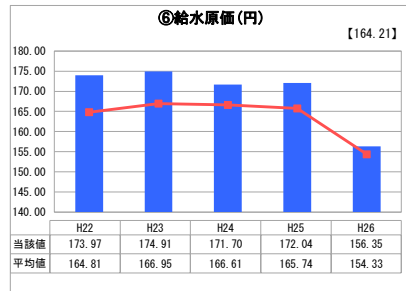
「支払能力」



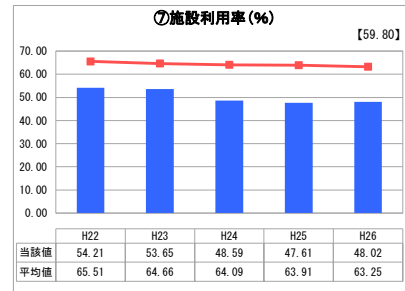
「債務残高」



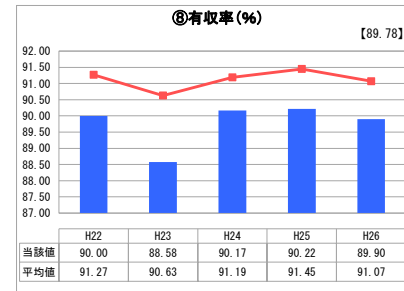
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

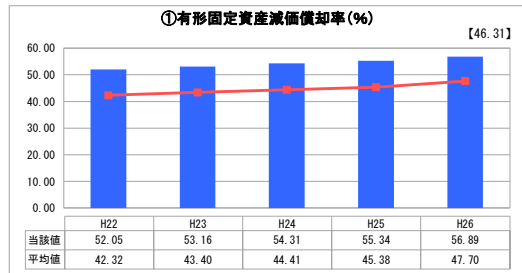


「施設の効率性」

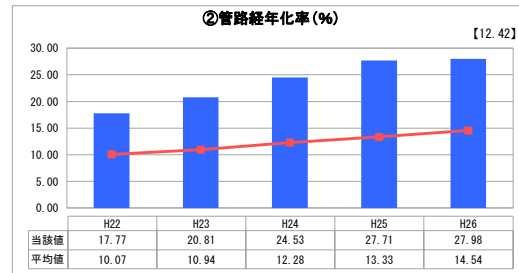


「供給した配水量の効率性」

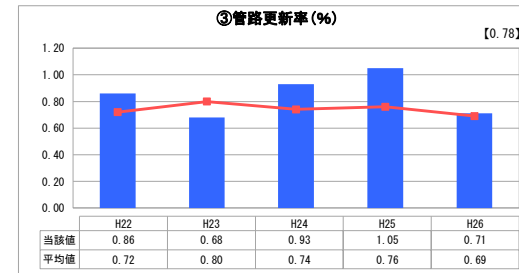
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率100%以上、累積欠損比率0%、流動比率100%以上を確保しています。また、企業債残高対給水収益比率も類似団体平均値より低くなっており、これらの指標からは比較的健全な経営状況であるといえます。

料金回収率は100%以上、給水原価についても類似団体平均値とほぼ同じとなっています。給水原価が類似団体平均値と比較してやや高いのは、水源が遠くにあるほか、給水開始が明治期と早く、維持管理費や減価償却費が掛かることが要因となっています。これらの数値が前年と変化しているのは、新会計制度適用の影響によるものです。

一方で、施設利用率は類似団体平均値と比較して低く、水需要と施設能力に差が生じています。この数値を改善するためには、水道施設の統廃合やダウンサイジングを進めていく必要があります。

また、有収率が類似団体と比較して低いのは管路経年化率の高さと関連しているものと考えており、配水管の更新を進めています。

2. 老朽化の状況について

高度経済成長期に大量に整備した管路が更新時期を迎えているほか、旧海軍水道から引き継いだものもあり、類似団体平均値と比較して管路経年化率が高くなっています。同様に有形固定資産減価償却率も類似団体平均値と比較して高くなっていることから、施設の老朽化が進んでいることが分析されます。

管路更新率は、類似団体平均値とほぼ同じですが、管路経年化率が高いことを踏まえ、超長期的な視点に立って更新費用の低減化、平準化、管の長寿命化を図りながら、計画的に更新を進めています。

全体総括

人口減少や工場撤退など本市水道事業を取り巻く経営環境は、厳しい状況にあります。一方で、現状の施設利用率は低く、施設の老朽化も進んでいます。

水道施設の更新を着実に進めるため、平成23年度から平成33年度までの上下水道事業の方向性を示したマスタープランを策定しています。このマスタープランの経営目標である「いつでも安心して使える止まらない水道・下水道」の達成に向け、具体的な実行計画を策定し、取り組んでいます。

なお、平成27年2月に半原水源システムを廃止しましたが、今後も施設の統廃合・ダウンサイジングを検討していきます。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。